

婦人関係資料シリーズ

国際資料 No. 43

夫婦の間の人間関係

L.M.ターマン著「結婚の幸福における心理学的要因」の抜萃

労働省婦人少年局

は し が き

この資料は、人間関係の近代化を目標として、オカ州婦人連合を
開催するに当り、アメリカのスタンフォード大学教授 L. M. ターマ
ン (LEWIS M. TERMAN) 博士の「結婚の幸福における心理学的要
因」(Psychological Factors in Marital Happiness)
(1938年) から、特に夫婦の人間関係についての資料を抜粋し
てほんやくしたものです。

なお、この著書は、結婚生活を心理学的に研究した数少ない業績の
一つとして、この種の研究家に屢、引用されています。

1957年4月

愛知県婦人少年局

目 次

は し が き	1
I. ターマンの調査について	3
1. 調 査 目 的	3
2. 調 査 対 象	3
3. 調 査 方 法	3
4. 調 査 の 内 容	3
(1) 予 備 調 査	3
(2) 本 調 査	4
5. 結 論	5
II 数表とその解釈	5
オ1表 夫婦の意見の一致と幸福度との関係	6
オ2表 結婚生活の現状について	9
オ3表 幸福点の分布状況	13
オ4表 煩度順による夫婦の苦情	15
オ5表 重要度順による夫婦の苦情	18
オ6表 パーソナリティに関する幸福度別の比較 (1)	21
オ7表 " " " (2)	24
オ8表 理想の結婚に関する意見の幸福度別の比較	25
オ9表 結婚年数による平均幸福点	27
オ10表 夫婦の年齢差による平均幸福点	28
オ11表 夫婦の知能差による平均幸福度	29
オ12表 夫婦の知能差による幸福度の比較	29
オ13表 結婚前の知り合い方による幸福度の比較	30
オ14表 子供時代の状況による幸福度の比較	31

I. ターマンの調査について

ターマンの調査は、結婚生活のあらゆる面について詳細に調べ上げに大きなものであって、この資料中に全部の内容を紹介することは困難であるので、ここにはたくさんの数表中、特に夫婦間の人間関係の観点から見て興味あるもののうち幾つかを引用するにとどめるが、その前にターマンの調査の概要を極く簡単に述べておきたい。

1. 調査目的

幸福なる結婚の秘訣を明らかにし、そこにおける心理的な要因を知ること。

2. 調査対象

1. 予備調査ではサンフランシスコ周辺に住む341組の夫婦と、107組の離婚者。離婚者は法廷の記録から抽出された。大半が中流以上で、5分の4以上が高等学校以上、3分の1以上が大学卒業生である。

2. 本調査はロサンジェルス家族関係研究所、サンフランシスコ家族関係センターの他、日曜学校、母の会、PTA、社交クラブ、研究会、婦人会などの協力により、科学的研究によく理解のある夫婦792組が選ばれた。その結果、中部又は南部カリフォルニア州の中流以上の人々が対象となっている。本調査には離婚者は含まない。

3. 調査方法

質問票の記入によったが、答は無記名で自分の配偶者にもわからぬように、また答を記入する前に質問について他のものと話しあう機会がないようにされた。

4. 調査の内容

(1) 予備調査

予備調査において、ターマンは先づ対象者中ヨ4ノ組の夫婦については、本調査と同様の方法で幸福点を測定し、(オ2表及びオ5表の説明参照)ノ28組の幸福グループと2ノ5組の不幸福グループに分けた。そして、その各グループと離婚者のグループにつき、各個人の客観的背景、パーソナリティ、或いは結婚生活における特別な態度というものと、幸福との相関々係を調べた。

この予備調査の結果ターマンは、結婚の幸福は、夫婦の耳、教育程度などよりむしろ、その他の背景、たとえば両親の結婚状態や、幼時の本人と父母との関係などに影響されることが多いことを知った。ターマンはこれは家族関係における子供の反応が、成長后自分の結婚に対する態度として現われてくるからであろう。

また、夫と妻のパーソナリティの組合せ(一致あるいは相違)よりも、結婚生活に対する特定の態度が、その幸福を左右するといっている。(オ1表参照)

(2) 本 調 査

本調査の質問は七部からなっていて、オ1部とオ2部は、各々異なる方面からパーソナリティの特徴を知ろうとするものであり、(オ6表、オ7表参照)オ3部は理想の結婚についての見解をたづねるものである(オ8表参照)、オ4部は現在の結婚の状況をどう把握しているかという質問で、夫に対するもの70問、妻に対するもの66問からなり、これを幸福点測定の基礎としている(オ2表参照)。オ5部においては結婚生活の背景についての12問により(オ9、10、11、12、13、14表参照)、両親や子供時代について詳しく調べ、この面で最も幸福と関係があるのは、両親の幸福な結婚、子供時代の幸福、母親との関係、家庭の教育のやり方などであることがわかった。オ6部は夫婦の性関係についての直接的質問、オ7部は性生活の背景についての質問である。

こゝでターマンは、性的な面で幸福と関係があるのは、妻の性的欲望の充足と、性的欲求における夫婦の差異であるという。そして、心理的に適応している夫婦は、たとえ性的に不満足でも非常に寛容であり、心理的に不適応な夫婦は、性的不調和を誇張するのでもあり、全部合計して夫に対する質問は362問、妻に対する質問は369問から成り、結婚に関するほとんどの事項を網羅している。

5. 結 論

ターマンは、この調査の結論として各要因が結婚の幸福に影響を与える程度は、パーソナリティと結婚生活の背景を合せてものと性的要因がそれぞれ同じ位であるといっている。しかし、性的要因もパーソナリティや背景と共通のものを含んでいるので、独立の要素としての分量は少なく、性生活に適応していることが、幸福な結婚生活を産み出すのではなく、幸福な結婚生活の結果として性生活の適応が生じるのである。故に、幸福な結婚のためには、パーソナリティや背景などの心理的要素を重視しなければならないと結んでいる。

II. 教表とその解釈

ターマンのほう大な調査報告の中から、こゝにはいくつかの教表を引用して説明するにとどめる。

オ / 表 夫婦の意見の一致と幸福度との関係

項 目	幸福グループ 100組	不幸グループ 100組	両者グループ 100組	幸福グループ と他との比較
あなたは議論をさけるようにつとめますか。	.49	-.39	-.40	.88
あなたはダンスより観劇が好きですか。	.81	.35	.16	.55
あなたは異性に対して無関心だと思いますか。	.45	-.08	.04	.47
あなたは他人の意見が自分と違ふとたやすくゆずりますか。	.44	.15	.25	.44
あなたは病気の時知人に見舞ってもらふのは好きですか。	.41	-.12	.09	.42
あなたは自信が強くはない方ですか。	.38	-.02	.04	.37
あなたはどちらによいかわからない時一人でもやってみますか。	.40	.12	-.07	.37
あなたは普通ほめられるとよくゆきますか。	.24	-.15	-.11	.37
あなたは人に会ふのをさける場合に道を曲つたことがありますか。	-.10	.28	.25	.34
あなたは急ぎの決断を一人でするのを好みますか。	.20	-.18	-.13	.35
あなたは次のこと又は職業が好きですか。嫌いですか。又は無関心ですか。				
生命保険の外交員	.63	-.10	-.14	.75
成人の教育	.50	.08	-.23	.57
歯 医 者	.37	.09	-.38	.51

項 目	幸福グループ 100組	不幸グループ 100組	両者グループ 100組	幸福グループ と他との比較
怒らないで批評をきくこと	-.26	-.05	.53	.50
図書館司書	-.26	.28	.17	.48
香水を扱う男	.42	-.02	-.11	.48
x 手数料かさまつた給料	.43	-.10	.03	.46
x 運転手が車掌	.40	-.05	-.06	.45
精力的な人々	.53	.02	.18	.43
x 変化のある仕事か単調な仕事	.35	-.22	.08	.42

x 知は二者を選択する仕事である。

ターマンは予備調査において、特定の態度に関する夫婦の答えの一致不一致と幸福度との相関性を探るために545問を用意したが、その中の130問について或程度の相関性を見出したが特に顕著なものの一部を記すると、オノ表の如くなる。表中の正数は、意見の一致した夫婦の率を示し、負数は一致しない夫婦の率を示す。

この表によれば、ターマンは夫婦の幸福を最も阻害するものは夫婦の一方が議論好きで、他方がこれを好まない場合であるといっている。又、「怒らないで批評をきく」と「図書館司書を好きか嫌いか」において、不一致の方が幸福であるとされているのは、怒らないで批評をきくことのできる人と、そうでない人の組合とは意見の一致を得易いということ、図書館司書を好む人は大てい固苦しい引込み勝ちな人であるから、これと反対の人との組合がうまくいくと考えられるのであると説明している。

ア2表 結婚生活の現状について

内 容	夫 々 2 人 %	妻 々 2 人 %
○あなたとあなたの妻(夫)は家庭外の楽しみを一緒にしますか?		
全 部	13.7	19.8
殆 ど 全 部	54.4	55.9
時 々	26.7	18.7
た ま に	4.9	4.4
全 く し な い	0.1	1.2
	100.0	100.0
○次の事項についての意見一致の程度		
(A) 家計のやり方		
常 に 一 致	29.2	34.4
大 て い 一 致	44.8	44.2
時 々 不 一 致	15.6	14.0
屢 々	3.5	5.3
大 て い	0.5	1.1
常 に	0.4	0.8
	100.0	100.0
(B) リクリエーション		
常 に 一 致	19.2	24.1
大 て い 一 致	57.8	53.1
時 々 不 一 致	18.1	18.6
屢 々	4.2	2.9
大 て い	0.6	1.0
常 に	0.1	0.3
	100.0	100.0
(C) 友 人		
常 に 一 致	26.4	28.4
大 て い	50.8	44.6
時 々 不 一 致	22.8	21.8
屢 々	4.2	3.4
大 て い	0.4	0.4
常 に	0.4	0.4
	100.0	100.0

表2 (つゞき)

内 容	夫 %	妻 %
(一) 子供の養育		
常に一致	25.7	31.2
大てい一致	46.7	41.6
時々不一致	21.8	21.4
屢々	4.4	4.4
大てい	0.7	1.0
常に	0.3	0.3
	100.0	100.0
(二) 慣例・習俗		
常に一致	23.7	27.8
大てい一致	47.7	42.8
時々不一致	23.3	21.3
屢々	4.2	5.1
大てい	0.6	0.4
常に	0.1	0.6
	100.0	100.0
(三) 人生観		
常に一致	25.3	32.0
大てい一致	48.7	43.3
時々不一致	20.8	17.3
屢々	4.1	5.1
大てい	0.8	1.8
常に	0.4	0.5
	100.0	100.0
(四) 姻戚の扱い方		
常に一致	32.6	38.4
大てい一致	40.1	36.0
時々不一致	20.1	17.2
屢々	5.7	6.2
大てい	0.8	1.3
常に	0.8	0.9
	100.0	100.0

表2 (つづき)

内 容	夫 %	妻 %
○意見が一致しない時は		
あなたがゆずる	14.7	16.0
あなたの妻(夫)がゆずる	3.8	4.7
互に妥協する	81.3	79.3
	100.0	100.0
○あなたはあなたの結婚を後悔したことがありますか。		
屢々	3.4	3.5
時々	12.4	12.8
たまに	28.9	25.3
全くない	55.3	58.4
	100.0	100.0
○もし生まれ変わるとしたら		
又同じ相手と結婚したい	82.7	84.1
違う相手と結婚したい	10.1	10.4
全然結婚しない	7.2	5.5
	100.0	100.0
○偶然に別居を考えたことがありますか		
ある	11.3	21.0
ない	87.3	79.0
	100.0	100.0
○偶然に離婚を考えたことがありますか		
ある	8.8	11.5
ない	91.2	88.5
	100.0	100.0
○いろいろなことを考慮に入れて、あなたの結婚は		
どの位幸福だと感じますか		
非常に幸福	28.5	34.5
普通よりはずっと幸福	36.8	35.9
“ いくらか ”	14.3	14.7
大てい普通	12.9	9.2
普通よりは少し不幸	2.7	3.0
“ ずっと ”	1.6	1.8
非常に不幸	0.1	0.8
	100.0	100.0

オ2表は、ク9.2組の夫婦の結婚生活の現状を示すもので、本調査のオ4部として行われた。

ターマンは、これらの答えの各々に幸福度におけるウエイトを附した点数をつけ、その合計をもって対象者の幸福点とし、更に幸福度の高い者と低い者において、背景や性生活との関係を調べる基礎にしている。

オ3表 幸福点の分布状況

幸 福 点	夫 772人	妻 772人
85 — 87	72人	101人
80 — 84	138	172
75 — 79	161	143
70 — 74	116	96
65 — 69	68	66
60 — 64	50	40
55 — 59	39	32
50 — 54	41	33
45 — 49	23	15
40 — 44	14	17
35 — 39	16	17
30 — 34	13	13
25 — 29	10	10
20 — 24	10	5
15 — 19	10	12
10 — 14	7	7
5 — 9	3	10
0 — 4	1	3
平 均 点	68.40	67.25

オ3表は、現在の結婚の状態に関する質問に対する回答（オ2表参照）を基礎として計算された各人の幸福点の分布を示す。これによれば、夫婦がその幸福をいっしょに同程度に感じているとはいえない。どちらかと云えば、妻の幸福点の方が夫のそれよりやや高いが、平均点の差は0.15で養い合いの隔りはない。しかし、最高、最低の数段階に属するものは、妻の方が夫よりも僅かながら多くなっている。これは妻の方が、幸福につけ、不幸につけ、夫より

も余計に感じることを意味し、外に仕事をもつ夫に比べて妻が家庭を始め唯一の活動領域としている現状では、当然のことであるかとターマンは云っている。

ターマンは、更にこの幸福度の40点以上を幸福度の高いグループ(夫40.5人、妻41.8人)、54点以下を幸福度の低いグループ(夫40.5人、妻41.8人)に分類したが、幸福度の低いグループ中に夫婦とも入ったものが9組あり、これはそのグループの夫の5.2%、妻の5.6%にあたる。なお、幸福度における最上位から300人を幸福グループ、最下位から150人を不幸グループとりて、諸々の比較に用いている。

表4 頻度順による夫婦の苦情

夫の苦情	順位	妻の苦情
収入が不足	1	収入が不足
妻がすぐ感情を害する	2	姻戚に関すること
妻が自分を非難する	3	夫が神聖廟でもこりっぽい
姻戚に関すること	4	収入のやりくりが悪い
妻が神聖廟で感情的	5	夫が自分を非難する
収入のやりくりが悪い	6	娯楽の好みが違う
自由が少い	7	夫が相談にのらない
娯楽の好みが違う	8	夫が討論好き
妻が気が短い	9	夫が気が短い
妻がうるさく小言をいう	10	夫が愛情を示さない
妻が自分を教育しようとする	11	自由が少い
慣習に対する考えが違う	12	夫がわかまて悪いやりがない
妻の愛情が足りない	13	友人のえらび方が違う
妻が討論好き	14	理知的興味が違う
友人のえらび方が違う	15	夫が気むづかしい
妻が不平を云い過ぎる	16	飲酒についての考えが違う
妻が他人にたやすく影響される	17	慣習に対する考えが違う
妻のせきもち	18	夫が自分のちょっとした話をうるさがる
妻が子供の訓育を邪魔する	19	夫が他人にたやすく影響される
妻が整理についてやかましすぎる	20	夫の愛情が足りない
妻がよいハウスキーパーでない	21	夫が仕事に成功しない
理知的興味が違う	22	宗教が違う
妻の体が弱い	23	夫が食事の行儀を知らない
妻が自分の趣味を邪魔する	24	夫がだらしない
飲酒についての考えが違う	25	夫が子供にきびしすぎる
教育程度が違う	26	教育程度が違う
妻がわかまて悪いやりがない	27	夫が仕事にばかり夢中になっている
妻が子供を甘やかす	28	夫が不平を云い過ぎる
宗教が違う	29	夫が粗野である
食事の好みが違う	30	夫が自分と外出するのを嫌う

カ4表 (つゞき)

夫の苦情	順位	妻の苦情
妻が自分の仕事に関心を持たない	31	夫が誠実でない
妻のおしゃべり	32	夫が他の女に関心をもつ
妻が困ったことをもっている	33	夫が家庭に関心をもたない
妻が飲量である	34	夫が食事におくれる
妻の食事の支度がおそい	35	食事の好みが違う
妻が怠けものである	36	夫がけち
妻が家の外に出て働く	37	夫がうぬぼれている
妻が訪問や来客好き	38	夫が酒を飲む
妻が社交好き	39	夫が鬱気がない
妻がぜいたく	40	夫のせきもち
妻が堅固な喋話をする	41	夫が飲量である
妻が仕事に口出しをする	42	夫が自分をののしる
妻が着物のことを気にしすぎる	43	夫のおしゃべり
妻が他の男に関心を持つ	44	夫が煙草を吸う
妻がうぬぼれている	45	夫が子供を甘やかす
妻が不真面目である	46	夫が不貞
妻が自分をののしる	47	夫が怠けもの
妻がだらしない恰好をしている	48	夫が意気地がない
妻が自分より若すぎる	49	夫が子供に関心をもたない
妻が自分より年長すぎる	50	夫がばくちをする
妻が誠実でない	51	夫が下品なくじがある
妻が煙草を吸う	52	夫が自分より年長すぎる
妻が料理が下手	53	夫が自分より若すぎる
妻が子供をかまわない	54	
妻が酒を飲む	55	
妻が不貞	56	
妻が野心家	57	

カ4表及びカ5表は、どういう種類の苦情が結婚の幸福に密接な関係があるかを究るために、夫に57、妻に53の項目をあげて、自分がもつたことのある苦情にしるしをつけ、それが結婚生活の幸福に影響があったかどうかを質問したものである。カ4表はこれを単純に頻度の順に並べたものであるが、夫の方の最上位にある10の苦情のうち7つ、即ち“収入が不足”“非難する”“姻戚に関すること”“神聖感又は感情的(妻の場合は“神聖感でおこりっぽい”)”“収入のやりくりが悪い”“娯楽の好みが違う”“気が短い”は妻の方でも最上位10のうちに入る。頻度の多いものは、夫にも妻にも大体共通であると云えよう。

しかし、この頻度の表にある苦情は、多くの中の見本に過ぎず、どの苦情が結婚生活における不幸の原因となるかは明らかでないから、頻度そのものはそれ程重要ではないと、ターマンは云っている。

表5 妻の苦情による夫婦の苦情

夫の苦情	順位	妻の苦情	順位
(10) 妻がうるさく小言を言う	1	夫がわがままで思いやりがない	(12)
(13) 妻の愛情が足りない	2	夫が仕事に成功しない	(11)
(22) 妻がわがままで思いやりがない	3	夫が誠実でない	(31)
(14) 妻が不平を言い過ぎる	4	夫が不平を言い過ぎる	(20)
(29) 妻が自分の趣味を邪魔する	5	夫が愛情を示さない	(10)
(48) 妻がだらしない恰好をしている	6	夫が相談にのらない	(7)
(9) 妻が気が短い	7	夫が子供にきかしすぎる	(25)
(19) 妻が子供の躾を邪魔する	8	夫が貧乏がしい	(15)
(45) 妻がうぬづけている	9	夫が子供に関心をもたない	(49)
(46) 妻が不機嫌である	10	夫が家庭に関心をもたない	(33)
(2) 妻がすぐ感情を害する	11	夫の愛情が足りない	(20)
(3) 妻が自分を非難する	12	夫が粗野である	(27)
(64) 妻が嫉妬である	13	夫が覇気がない	(35)
(54) 妻が子供をかまわない	14	夫が神経質でこりこりしている	(3)
(21) 妻がよいハスキーパーでない	15	夫が自分を非難する	(5)
(14) 妻が計議好き	16	夫のやりくりが悪い	(4)
(33) 妻が酒をくちくちくしている	17	夫が嫉妬である	(41)
(15) 妻が誠実でない	18	夫が不貞	(46)
(42) 妻が仕事に口出しをする	19	夫が短気	(47)
(28) 妻が子供を甘やかす	20	夫が自分のちよとした話をうるこがる	(18)
...	...	...	...
(50) 妻の不貞	44	夫が食卓におくれる	(34)
(23) 宗教が違ふ	47	夫が自分をののしる	(42)
(52) 料理が下手	48	夫が酒を飲む	(38)
(24) 教育程度が違ふ	49	教育程度が違ふ	(26)

表5 (つづき)

夫の苦情	順位	妻の苦情	順位
(4) 妻が自分をののしる	50	夫が自分より若すぎる	(53)
(17) 妻が外へ働きに出る	51	食事の好みが違う	(35)
(7) 妻が社会的野心をもっている	52	夫がたばこを吸う	(44)
(32) 食事の好みが違う	53	夫が自分より年長すぎる	(52)
(50) 妻が自分より年長すぎる	54		
(7) 妻がたばこを吸う	55		
(55) 妻が酒を飲む	56		
(15) 妻が自分より若すぎる	57		

() 内の数字は頻度における順位を示す。

そこでターマンは、表5の如く、どんな苦情が結婚の幸福に影響したかを知るため、特定の統計的操作を加えて、苦情の影響程度の高い順に並べた。ここでは、表4で多かった経済的不満や、姻戚に関することは上位になくて、夫の場合は「妻がだらしない恰好をしている」とか「妻がうぬづけている」又は「不機嫌である」などが非常に重大さを帯びて来、妻の場合は「夫が仕事に成功しない」とか「夫が不平を言い過ぎる」とか、或いは子供の教育についての考え方の相違などが重要なものとなっている。これははすべて相手のパーソナリティの欠点に対する不満であって、結婚状態の客観的條件ではない。そして、ターマンはよく重大な関係があるかのようにいわれる耳令や学歴の差が、重要度において最下位にあるのは興味深いといっている。

更に又、ターマンは、ヴィクトリア時代に守るべき婦徳としてあげられる十戒、すなわち、

1. 死に至るまで夫に貞淑を盡さねばならぬ
2. むやみに罵詈雑言をはいてはならない。

3. 酒を飲んではいけません。
 4. ばばを吸ってはいけません。
 5. 家族のための料理がうまくなければなりません。
 6. 家を守り、外に恥を求めてはいけません。
 7. 自分より若い夫をもってはいけません。
 8. 社会的野心のために夫の世話をやるべきにはなりません。
 9. 夫以外の誰をも尊敬してはいけません。
 10. 夫の嫌いな食物が食べたい時もそれをかくさねばなりません。
- をあげて、この苦情表によれば飲酒、喫煙、怒罵などは男女ともに今日タブーではないし、妻が外に恥を求め、或いは社会的活動をすることも普通になっており、その為料理は即席のものが出来、宗教の差、年令の差もさして重要でなく、不貞さえも46校で意外に低く、現代における結婚の幸福については、ヴィクトリア時代の戒めはもう权威がなくなったように思われる、といっている。

表6 パーソナリティに關する幸福度別の比較

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
○あなたはよくとてもみじめな気持ちになりますか				
な る	24.3	44.0	29.3	54.0
な ない	72.7	51.3	68.3	38.0
○もし一生懸命努力しなければならぬとしても、自分は自分の道を行くと思いませんか				
思 う	35.0	44.7	25.0	43.3
思 わない	55.0	44.7	66.3	46.7
○あなたは気むづかしいですか				
気むづかしい	27.7	46.0	31.7	48.0
気むづかしくない	68.3	56.6	62.3	45.3
○あなたはよく不機嫌になりますか				
な る	26.0	48.7	21.0	44.7
な ない	68.7	45.3	73.7	50.7
○あなたはよく淋しい 思いをすることがありますか				
あ る	16.3	46.6	22.0	48.7
な い	84.0	48.7	75.3	50.0
○あなたは他人と一緒にいながら淋しいと思うことがありますか				
あ る	20.0	32.7	19.3	44.0
な い	77.3	62.0	76.3	52.7
○特定のつまらないことが氣にかかって仕方がないことがありますか				
あ る	22.7	37.3	22.7	38.0
な い	71.7	52.7	73.0	57.3
○あなたは忠告を求めるのをさけますか				

表6 (つづき)

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
さける	33.0	42.3	27.3	42.7
さけない	64.7	48.0	67.3	52.7
○もし会合におくれた時は、前の席につくより立っていますか?				
は い	38.0	52.3	31.3	32.0
い い え	52.7	41.3	68.3	65.3
○感情が激化したときに一人でいた方がいいですか?				
は い	62.7	72.0	58.3	76.0
い い え	25.7	18.7	36.0	18.7
○何もはっきりした理由がないのに嫉しくなったり寒しくなったりしますか?				
す る	25.7	39.3	32.7	52.3
し ない	70.7	55.3	63.7	38.7
○あなたはよく罪悪感を感じますか?				
す る	29.3	44.0	28.7	46.7
し ない	52.7	42.3	52.7	39.3
○戒められると不満に感じますか?				
感 じる	33.0	48.7	24.7	39.3
感じない	62.7	46.7	68.3	49.3
○あなたは人の気持ちを害ねることをいわないよういつも注意をしていますか?				
い る	78.0	62.0	84.0	67.3
い ない	17.1	32.7	13.7	26.0
○あなたはすぐ怒りますか?				
は い	16.7	26.7	19.0	38.0
い い え	80.7	63.3	79.3	58.7

表6 (つづき)

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
○明らかに元気よくしていることはあなたにとって他の人よりもむづかしいと思いますか?				
思 う	9.0	13.3	6.7	20.7
思わない	85.0	73.3	91.0	72.7
○異性に対する関係であなたは自分が主権的になるうとしますか?				
す る	19.0	28.7	8.0	22.0
し ない	74.3	60.7	84.7	66.7

これはパーソナリティが結婚の幸福と関係があるかどうかを知るために行った質問の答えをグループ別に比較したものの抜萃である。こゝには多くの中で比較的幸福グループと不幸グループの率が違うものを拾った。

ヤウ表 パーソナリティに関する幸福度別の比較

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
あなたは次のことが好きですか嫌いですか				
刑事事件の弁護士				
す き	24.0	38.7	12.7	16.7
き ら い	52.7	42.0	62.3	51.3
たばこを吸う人				
す き	27.3	39.3	4.0	10.7
き ら い	40.7	32.0	61.7	50.0
うらなひ看				
す き	4.7	8.7	15.0	24.0
き ら い	71.0	60.7	50.0	37.0
聖書の勉強				
す き	33.0	22.0	49.0	42.0
き ら い	24.3	33.3	11.0	20.0
禁酒主義者				
す き	26.3	12.7	25.7	23.3
き ら い	22.7	34.7	18.3	22.6
話をするより聞くことでは				
話す方がよい	50.0	41.3	38.3	32.7
聞く方がよい	13.0	13.3	30.7	42.0
やさしめやさめの人とうねほれた人				
やさしめやさめの方がよい	10.7	21.3	9.7	10.7
うねほれの方がよい	13.0	13.3	17.0	20.7
退屈な日には大勢の人と一緒に なると元氣になりますか				
は い	45.0	33.3	34.7	33.3
い い え	22.7	34.0	27.7	34.0
命令されると				
内心反抗する	17.7	33.3	14.0	28.0
慫慂に効く	57.0	43.3	65.7	47.3

ヤウ表と同様パーソナリティに関する質問の答えを比較したものの抜萃である。

ヤロ表 理想の結婚に関する意見の幸福度別の比較

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
理想的結婚にとって次のことはどの位重要なことですか				
夫が妻より年上であること				
非常に大切	49.7	10.6	56.2	52.7
どちらでもよい	42.3	33.1	42.2	34.1
余り又は全くのぞましくない	14.0	6.3	1.6	11.1
夏のあう夫婦なら休暇も一緒に にとること				
非常に大切	44.4	26.2	44.8	24.8
のぞましい	94.2	76.1	92.1	77.2
どちらでもよい	4.8	14.1	7.1	15.2
余り又は全くのぞましくない	1.0	9.8	0.7	7.6
余りけちけちしなくても快適に 暮らせるような経済的な余裕が できるまで結婚をのぼすこと				
非常に大切	9.6	19.1	9.5	16.6
のぞましい	49.5	62.4	56.4	66.3
どちらでもよい	28.5	22.0	23.1	17.2
余り又は全くのぞましくない	21.9	15.6	20.4	16.5
妻が自分も働いて給料を得、夫の みにたよらないこと				
非常に大切	1.7	4.9	2.4	9.0
のぞましい	11.3	16.5	10.0	22.1
どちらでもよい	33.8	32.4	36.5	37.2
余りよくない	54.8	51.4	54.0	40.7
性的道徳は夫婦とも平等であること				
非常に大切	82.9	67.6	88.7	89.0
のぞましい	77.6	93.0	98.7	100.0

表8 (つづき)

項 目	夫		妻	
	幸福グループ %	不幸グループ %	幸福グループ %	不幸グループ %
結婚後妻は夫に完全に貞節 であること				
非常に大切	82.6	66.9	90.8	72.7
のぞましい	96.2	90.8	92.3	74.4
どちらでもよい	3.4	4.3	2.7	2.8
余り又は全くのぞましくない	0.3	2.8	0.0	2.8
結婚後夫は妻に完全に貞節 であること				
非常に大切	80.9	62.0	90.1	72.7
のぞましい	96.0	90.2	92.2	73.7
どちらでもよい	3.4	2.0	2.7	3.5
余り又は全くのぞましくない	0.3	2.8	0.0	2.8

これは対象者の理想的と想う結婚についての意見を、幸福度別に比較したもののから、主なるものを拾ったものである。

表9 結婚年数による平均幸福点

結 婚 年 数	夫婦数	平均幸福点	
		夫	妻
0 - 2	110	69.0	74.2
3 - 5	103	68.5	69.2
6 - 8	142	65.1	66.9
9 - 11	92	68.4	69.0
12 - 14	116	67.7	68.5
15 - 17	73	65.9	65.5
18 - 20	64	62.6	67.4
21 - 23	32	71.3	69.9
24 - 26	26	62.9	70.5
27年以上	34	69.4	70.3

これは、結婚期間の長さによって幸福度が変化するかどうか見たものである。この表によれば幸福度は、結婚後20年たっても、最初の2年間より極く僅か落ちるのみで、殆ど変はない。4年から8年の間にやや落ちるのは、新婚気分がうすれ、不調和が目立ち始める時期なのであるかと、ターマンは説明している。しかし、離婚率は10年を頂点として20年後迄の間に多く、その後は幸福点も大抵平らになるのであるという。

表10 夫婦の年令差による平均幸福点

夫婦の年令差	夫婦数	平均幸福点	
		夫	妻
夫が4-10才若い	26	68.9	75.9
1-3才	84	66.7	68.5
0-2才年長	297	62.6	62.7
3-5才	200	70.4	70.1
6-8才	97	65.9	66.2
9-11才	49	68.5	68.8
12才以上	34	71.8	68.5

これは夫婦の年令差によって、幸福度が相違するかどうかを見たものである。ここで特に目立つのは、夫が妻より4才から10才若い場合に妻の平均幸福点が非常に高いことであるが、ターマンは、この実数は26なので結論を出すには充分ではないといっている。又、夫が妻より6才から8才年長である場合、夫の平均幸福点が急に低くなり、9才から11才の年長の場合、12才以上年長の場合と差が大きくなるに従い、急に幸福点がふえている。これは、ターマンによれば、8才か10才位年長の夫は相当年長なためにいろいろの不利な点がありながら、もつと年長で至痛カもある夫よりは、無条件に尊敬をしてももらえないということにありはしないかという。しかし、この方の実数も34にすぎない。

結局、もつとな範囲にわたる無作意の抽出による調査でなければ、年令差と幸福度との関係は結論を出せないといっている。

表11 夫婦の知能差による平均幸福点

夫婦の知能差	夫婦数	平均幸福点	
		夫	妻
夫が著しく優れている	118	64.6	71.3
夫がやや優れている	181	68.1	70.0
夫婦とも同じ	370	70.1	70.4
夫が劣っている	120	66.2	60.9

表12 夫婦の知能差による幸福度の比較

夫婦の知能差	夫		妻	
	幸福度の高いもの 376人	幸福度の低いもの 120人	幸福度の高いもの 436人	幸福度の低いもの 127人
夫が著しく優れている	12.6%	20.3%	15.1%	8.7%
夫がやや	22.7	25.8	23.8	21.2
夫婦とも同じ	56.8	32.3	50.3	40.9
夫が劣っている	13.9	15.6	10.8	28.2

表11と表12は、夫婦の知能差がその幸福に如何に影響するを見たものである。夫よりも著しく劣った妻の平均幸福点は71.3で他のどれよりも高いが、その夫は64.6で一番低い。ターマンは、このことは、夫は妻が自分より劣っていることを望むという一般の考えをくわがえすものであるといっている。夫の場合も妻の場合も、幸福度の高いものの半分以上は夫婦の知能が殆ど同じ程度のものが占めている。

表13 結婚前の知り合い方による幸福度の比較

夫が妻を知つていた程度	夫		妻	
	幸福度の高いもの 396人	幸福度の低いもの 123人	幸福度の高いもの 436人	幸福度の低いもの 127人
非常によく	% 63.3	% 34.9	% 64.1	% 33.9
よく	% 18.7	% 35.7	% 19.0	% 30.7
普通に又は少し	% 18.0	% 29.4	% 16.9	% 35.4

これは、結婚前の交際度が、結婚後の幸福度に如何に影響するかを見たものである。幸福グループのうち、夫も妻も60%以上が非常によく知っていたもので占められ、普通に又は少し知っていたものは18%以下であるのに対し、不幸グループでは、夫も妻も3分の1に過ぎない。ターマンは、この表によれば、結婚後の幸福には結婚前から非常によく知っていることが影響を及ぼしているといえるが、しかし、この数字が結婚前の交際期間の長さと喰いちがう点があることと、対象者がこの質問に答えるときに現在の結婚後の幸福の段合に左右されはしないかとも考えられるといっている。

表14 子供時代の状況による幸福度の比較

子供時代の状況	夫		妻	
	幸福度の高いもの 350人	幸福度の低いもの 127人	幸福度の高いもの 434人	幸福度の低いもの 126人
非常に幸福と普通より幸福	% 54.6	% 33.1	% 52.3	% 33.3
普通	% 34.7	% 43.1	% 32.7	% 30.2
非常に不幸と普通より不幸	% 10.7	% 23.6	% 15.0	% 36.5

これは子供時代の幸、不幸が、結婚後の幸、不幸に如何に影響するかを見たものである。一見してわかるとおり、幸福度の高いもの（幸福グループ）には、夫、妻とも子供時代に普通より幸福であったものが大半を占めており、一方幸福度の低いもの（不幸グループ）では普通より不幸であったものが幸福グループのもの2倍以上になっていて、ターマンは結婚後の幸福と子供時代の幸福の関連が深いことがわかるといっている。

1957年4月印刷

1957年4月発行

編集人 労働省婦人少年局

印刷人 労働省婦人少年局

印刷所 文京区富坂町1の1

株式会社華鉄商会

電話 小石川(92)7439